

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100202		
法人名	特定非営利活動法人 和		
事業所名	共生型多機能施設 グループホーム コロイ		
所在地	北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目5番2号		
自己評価作成日	平成24年3月22日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194100202&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さいコミュニティでの共生型という施設の特徴を活かし、高齢者・障がい者・子供たちが寄り添い、共生していけるような環境づくりを目指しております。地域の皆さんも気軽に立ち寄れるような地域密着サービスが目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域に根差した事業所を目指す取り組み>
これまで、福祉のサービスが不足していた阿寒湖畔地区に高齢者と障がい者が馴染みの地域で共生出来る事業所になっており、地域住民との交流も積極的に行い、小学校や中学校の職業体験実習や運動会や学芸会等の学校行事への参加や慰問を受け、相互の交流を図っています。また、町の社会福祉協議会主催の介護教室等の実習も事業所で実施しています。
<積極的な外出支援>
日常的な散歩やコンビニへの買物の支援は元より、近郊の観光地へのドライブや地元のお祭り等にも積極的に参加しています。また、地元のホテルでの外食や貸衣装を利用しドレスアップして写真を取るなど利用者が楽しめるような支援も行っています。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を課題にした施設理念を構築、常に意識できるよう掲示しています。	職員全員で話し合い、地域密着の意義を踏まえ、事業所独自の理念を作りあげている。また、日々の申し送りやミーティングで理念について話し合い、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や学校、各団体の行事に積極的に参加し、今までの暮らしや繋がりを大切にしています。	事業者は、地域の一員として、利用者と共に地域の行事や小中学校の職業体験実習や運動会等の学校行事に参加して相互の交流を図っている。また、町の社会福祉協議会主催の介護教室等の実習も事業所で実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護を必要としていない高齢者や、老人会の方々とカラオケ等で交流を図りながらコロイの活動を見て感じていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会のメンバーの方々がかなかなか揃わない状況が多い中、利用者様の近況報告や施設での行事を案内しながら、地域の皆さんの意見などを伺える機会を設けています。	運営推進会議は、利用者の近郊報告や行事の活動状況、火災避難訓練について報告を行い、具体的に話し合い、意見交換している。	今後は、運営推進会議を定期的に開催できるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	閉鎖的にならないように、施設の状況報告や難ケースの相談をしケアに活かすようにしています。	町担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に繋がる不適切な介護にならないよう指導しています。防犯上、夜間帯の施錠以外は施錠していません。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について事業所内で研修を行い、職員の共有が行われるよう努めている。また、日中、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケースカンファレンスや打ち合わせ時に定期的に虐待・身体拘束をテーマとし啓発しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びスタッフが各研修会、OFFJT等に参加、内容をカンファレンス時に発表、共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護サービスに対し、理解をしていただける説明、自施設にて提供できる限度など明確に納得いただける説明を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪された際に、出来るだけご家族様の要望、ご意見などを伺い、支援体制に反映できるように考えています。	来訪時や家族が参加する行事の際に意見や苦情、要望などを直接言って貰えるように働きかけ、そこで出された意見や要望は速やかに改善に向けて取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や全体会議の時や個人面談を実施、意見・要望などを聞く時間をつくり施設運営に結びつけています。	毎月のミーティングや日常業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、面談の機会を作り、個別に相談ができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の能力、資格、経験等に応じた処遇を行うこと基本とし、向上心を持って取り組めるような環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフに自己評価を実施してもらい、それぞれのレベル、スキルを自覚してもらい目標・課題を届け取りくんでもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の交換研修会に参加し、受け入れをし違う施設の活動を参考にさせてもらっています。また、同法人内での交換受け入れも実施、法人の取り組みや方針の統一も図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の際、至るまでの生活歴、既往歴など出来るだけ把握し、自然な形で利用を開始していただける様に配慮しています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様ばかりではなく、利用者ご家族様の要望、希望などをケアプランに盛り込んでいけるようにしています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、その状況に合わせた、今何が必要なのか？ といった事を意識して対応しています。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『支援させていただいてる』という意識を持ち、利用者様の残存能力を十分に発揮し生活していただける支援を目指しています。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり面会に来れないご家族さんにも近況が分かるような配慮、報告を心がけています。ご家族さんのアドバイスもケアの参考にさせてもらっています。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	プライバシーの保護や偏見などおこらぬよう配慮しながら馴染みの生活、関係を維持できるよう支援しています。	本人がこれまで大切にしてきた、友人・知人との関係が途切れないよう来訪しやすい環境作りに心がけている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小さい地域でサービス提供している為、昔ながらの関係性や顔なじみの利用者様同士の繋がり等も配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様やそのご家族様が気軽に立ち寄れる環境、施設を目指しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の生活スタイルにより近づけるような居心地のいい空間に出来るよう目指しています。 困難な場合は、その方にストレスのかかぬよう配慮し納得していただく努力をしています。	アセスメントを通じて家族や本人の意向や希望を把握し、日常の会話や表情の中からも本人の思いを聴取するよう努め、職員間で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ生活歴に沿った支援、既往歴の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人、個別対応を基本の考えとし、その人に合わせた支援方法を考えています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの目線ばかりにとらわれず、ご家族様や関係者からの情報や意見なども参考にプラン、支援の方向に取り込んでいます。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りなどで重要な事項を伝達、共有し新たなプランに反映させています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方に住んでいる方などに対し、入居者様と一緒に訪問したり、家族会(食事会)などを企画したりしています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の生活にあった地域資源を有効活用しプランにも取り入れていく。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関では対応しきれないケースがあるので、近郊の医療機関をかかりつけとし、Drの意見を反映しプラン作りを展開しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となるように努めている。また、法人の看護師を通じて利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフで判断できない事等は小規模スタッフの看護師に相談し、適切な処置・対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関では入院機能があまり期待できないことが多いので、大型の医療施設に受診の際にケースワーカーや看護師に相談するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携が困難な地域なので終末期、看取りの方々には対応しきれないことはあらかじめご家族様に説明をし、納得いただいています。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを家族に十分説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	総合避難訓練の項目の中に、救命救急蘇生訓練も取り入れました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時等に対応できるように定期的な総合訓練など実施、近隣の方々にも発信しています。	消防署の協力を得ながら、年2回緊急時に職員全員が速やかに対応できるよう実技を伴う避難訓練を実施している。また、緊急時マニュアルや非常招集連絡網も整備されている。	今後は、夜間を想定した避難訓練を計画しているので、その実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフに尊厳に対する意識を高めてもらうよう啓発、教育していく時間をつくっています。	記録などの個人情報の扱いは、十分に注意しており、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務的になったり押し付けにならない様にあくまで利用者様の意思、希望を第一に支援したいと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの概念で、あえて手間をかけて対応していくようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マンネリ化した格好にならないようにその人の個性を表現することをお大切にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対するアセスメントも重要視し、極力皆さんの好みに合わせた食事提供を目指しています。季節も感じていただける様なメニュー作りも考えています。	利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や後片付けを楽しんで行えるように努めている。また、その日の体調に合わせた食事を提供している。	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を把握、脱水、摂り過ぎにならぬよう管理提供しています。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯洗浄は出来るだけ利用者様をお願いして、仕上げや自立困難な方はスタッフが対応しています。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本は布パンツを使用していただき、夜間や身体状況が悪い方にパットを使用していただくようにしています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならぬよう、体操を積極的に参加してもらい食材や飲み物にも注意しています。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	極力、利用者さんの希望に沿えるような時間設定をしています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。また、足浴を実施し、一人ひとりに沿った支援をしている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれの生活リズムや習慣などに合わせ違和感、ストレスを感じないでいただける様な生活を提供したいと考えています。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理も、処方変更の際には薬の内容・副作用の有無や度合いなども把握し、配薬の際にも3段チェック体制をとっています。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や菜園が得意な利用者様には、能力を存分に発揮していただける様、手伝っていただいたりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩や買い物に出掛けたりしますが、月に何度かは近郊や郊外に『おでかけ』の時間を設けています。行き先も、季節に合わせた場所や祭事など。	日常的に散歩や買い物など一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。また、『おでかけ』の時間を設け、近郊の観光地へのドライブや北見市の菊祭り、釧路市内の大型スーパーへの買物など普段は行けないような場所への支援も行っている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『おこづかい』という事でご家族様から預かっていますが、ご自身で持ちたい希望の方には所持していただいています。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族様への電話や手紙を書いていただいています。混乱される恐れのある利用者様にはご家族様と相談して都度対応を考えています。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の内装等は刺激になるような過度な配色は避け落ち着いた時間を過ごしていただける様に配慮した作りをしています。装飾品は、皆さんで作成した貼り絵など。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングには、ソファやテーブルがバランス良く配置され、共用空間の壁には、折り紙等の作品を飾るなど利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どうしても気が合わない同士の利用者様もいらっしゃるのでフロアの座席の位置、向きなどに配慮しています。フロアで過ごす時間が長い方には、時々ゆったり過ごせる場所を作っています。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物や使い慣れた物などをお持ちになってもらっています。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にいつまでもお元気でいてほしい、出来るだけ自立した生活を送っていただきたいという考えで支援しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームコロイ

作成日: 平成 24年 4月 11日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	スタッフが利用者様の尊厳に対しての認識、意識に違いや差が出ているので、理解・統一してもらえるよう教育、指導していく。	全スタッフが理解し利用者様を尊重した対応が出来るようになる。	参考資料などを業務会議やケースカンファレンスの際に、時間を作り周知、啓発していく。	12ヶ月
2	38	どうしても業務的な対応になってしまうことが多いので、利用者様の対応等が後回しになってしまったり、雑になってしまう。	パーソンセンタードケアを理解し、実践できるようになる。	業務の内容に無理がないか、スタッフの意見などを参考に検討し改善していく。	12ヶ月
3	13	スタッフのキャリアやスキル、レベルに差やムラがあるので対応が統一できない	全スタッフに自己評価をしてもらい、それぞれに何が不足しているか 理解、自覚しスキルアップしてもらう。	自・他法人や関係各所の講習会に参加していく、内容などを共有していく。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。